

1. 理念・目的

1. 理念・目的

1. 現状の説明

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

〈1〉大学全体

同志社女子大学は、新島襄の先駆的な女子教育への情熱に基づく女子塾を起源とし、創立以来、「キリスト教主義」「国際主義」「リベラル・アーツ」を教育理念 (Spirit) に掲げ、時代や社会の要請に応じた教育を行い、いずれの学部学科においても、専門分野に関わる識見と幅広い教養とを身につけさせ、多様な進路に柔軟に対応できるバランスのとれた女性を社会に送り出してきた。2007年には、この理念を基本として「同志社女子大学が育む女性像」(Mission) を新たに定めた。

Mission 同志社女子大学が育む女性像

古きを大切にし、新しきを生きる。
リベラル・アーツとともに品格と良心をもって、
ゆたかな世界づくりに寄与する女性。

さらに、2012年に、SpiritとMissionに基づき「将来構想に向けた方針・方策」を策定し、2012年から2016年の5年間の活動方針・方策を掲げ、それらを実現するための目標と具体的な取組みを定めた (1-1)。

大学および大学院における目的は、建学の精神に基づいて「同志社女子大学学則」(以下「学則」)「同志社女子大学大学院学則」(以下「大学院学則」)に定めている (1-2、1-3 各第1条)。

同志社女子大学および同志社女子大学大学院の目的

(大学)

本学は、教育基本法に基づき、学校教育法の定める大学として学術の教授研究を行うとともに、キリスト教の精神にしたがい、円満な人格を涵養し、国際的視野に立って建設的に、かつ責任をもって生活し得る女性を育成することを目的とする。

(大学院)

同志社女子大学大学院は、立学の精神に基づき学部の教育の基礎のうえに、学術の理論および応用を教授研究し、精深な学識と研究能力を養い、文化の進展に寄与する女性の育成を目的とする。

〈2〉学芸学部

学芸学部では、学部および学科ごとの人材養成目的を学則に定めている (1-2 p. 18)。

〈3〉現代社会学部

現代社会学部では、学部および学科ごとの人材養成目的を学則に定めている (1-2 p. 38、p. 44)。

〈4〉薬学部

薬学部では、学部および学科の人材養成目的を学則に定めている (1-2 p. 58)。

〈5〉表象文化学部

表象文化学部では、学部および学科ごとの人材養成目的を学則に定めている（1-2 p. 48、p. 53）。

〈6〉生活科学部

生活科学部では、学部および学科ごとの人材養成目的を学則に定めている（1-2 p. 31、p. 34）。

〈7〉文学研究科

文学研究科では、専攻ごとに人材養成目的を大学院学則に定めている（1-3 p. 8、p. 10～13）。

〈8〉国際社会システム研究科

国際社会システム研究科では、人材養成目的を大学院学則に定めている（1-3 p. 14）。

〈9〉薬学研究科

薬学研究科では、人材養成目的を大学院学則に定めている（1-3 p. 12）。

〈10〉生活科学研究科

生活科学研究科では、専攻ごとに人材養成目的を大学院学則に定めている（1-3 p. 16～17）。

（2）大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

〈1〉大学全体

本学の教育理念は、『同志社女子大学 大学案内』（以下『大学案内』）や同志社女子大学ホームページ（以下「大学ホームページ」）等に掲載し広く社会に公表している（1-4、1-5 p. 6）。人材養成の目的は大学ホームページに掲載している（1-6）。

学生に対しては、建学の精神・教育の理念・教育の目的は、学生に配布する『学生生活のしおり』（1-7 p. 14～15）に記載している。各学部の履修要項には「教育理念・目標」を掲載し（1-8 p. 44、p. 120、p. 140、1-9 p. 42、p. 68、1-10 p. 42、1-11 p. 42、p. 52、1-12 p. 42、p. 62）、大学院の履修要項には人材養成の目的を掲載している（1-13 p. 38）。

また、大学の様々な行事においても教育理念に触れることができるプログラムを用意している。

キリスト教主義については、「聖書」の授業（必修科目）においてキリスト教や本学の創立者について学ぶ。毎朝、礼拝を行うとともに、入学式、卒業式、創立記念日、サマーキャンプ、スプリングキャンプ、クラブリーダーズミーティング、新入生オリエンテーションリーダーズトレーニングなどの各種行事において、開会礼拝と閉会礼拝を行っている。新入生オリエンテーションリーダーズトレーニングでは、礼拝の意味・礼拝の持ち方につ

1. 理念・目的

いての講義も行っており、新入生を迎えるにあたって在学生在がキリスト教主義について理解を深められる機会を設けている。礼拝に加えて、リトリート、ワークキャンプにおいても、キリスト教精神の浸透、道徳や倫理の涵養を図っている。以上のように、キリスト教主義の周知については、授業と課外活動とを相互補完的に展開している。

国際主義については、語学力を磨くだけではなく、国際社会の歴史的、文化的、政治的背景を正しく理解するために、国際交流プログラムの充実に努めてきた。英語学習の支援、中・長期留学制度や海外研修プログラムを行っている。2007年度に開設した学芸学部国際教養学科は、英語圏への留学を必修科目としており、本学においても特に学科の目標として、高い英語力と国際感覚をもって国際舞台で活躍できる能力の育成を掲げ、国際主義の周知に努めている。

リベラル・アーツについては、開学時より、リベラル・アーツを教育の柱とし、専門分野の知識や技術の修得はもちろん、多様な分野の学問を修めることで広い視野を養い、物事の本質を捉える力を身につけ、ゆたかな世界づくりに寄与する女性を育てている。所属学部学科の専門科目のほかに、全学科共通の「共通学芸科目」等を設置し、国内留学制度や単位互換制度を整備し、幅広い学びの機会を提供することで、リベラル・アーツの周知に努めている。

教職員に対しては、本学のスピリット、ミッション、本学が育む女性像、アクションプラン、創業者新島襄の言葉等を記載した「クレド」(1-14)を常勤の教職員のみならず有期雇用の教職員、業務委託や派遣社員等本学で働く者全員に、毎年度4月に配付して、建学の精神・教育理念の可視化を図り、共通意識の醸成に努めている。

〈2〉学芸学部

学芸学部の理念・目的は、大学ホームページや『入試ガイド』に記載し、広く社会に公表している。『学芸学部履修要項』には「教育理念・目標」を掲載し、大学構成員に周知している。また、『大学案内』や学科パンフレットには、人材養成の目的や「教育理念・目標」をわかりやすい表現に直した学科の理念や特色を掲載し、受験生等に公表している(1-15、1-17、1-19、1-20、1-16 p. 4~5、1-8 p. 44、1-5 p. 26、1-18 音楽学科、情報メディア学科、国際教養学科)。

〈3〉現代社会学部

現代社会学部では、学部・学科の理念・目的は、大学ホームページや『入試ガイド』に記載し、広く社会に公表している。『現代社会学部履修要項』には「教育理念・目標」を掲載し、大学構成員に周知している。『大学案内』や学科パンフレットには、人材養成の目的や「教育理念・目標」をわかりやすい表現に直した学科の特色を掲載し、受験生等に公表している(1-15、1-21、1-22、1-16 p. 5、1-9 p. 42、p. 68、1-5 p. 52、p. 62、1-18 社会システム学科、現代こども学科)。

〈4〉薬学部

薬学部医療薬学科の理念・目的は、大学ホームページや『入試ガイド』に記載し、広く社会に公表している。『薬学部履修要項』には「教育理念・目標」を掲載し、大学構成員に

周知している。また、『大学案内』や学科パンフレットには、人材養成の目的や「教育理念・目標」をわかりやすい表現に直した学部理念や特色を掲載し、受験生等に公表している。さらに、父母懇談会での学科紹介やオープンキャンパスでの学科説明会等でも意識的に取り上げ、周知を図っている（1-15、1-23、1-16 p. 6、1-10 p. 42、1-5 p. 70、1-18 医療薬学科）。

〈5〉表象文化学部

表象文化学部では、学部・学科の理念・目的は、大学ホームページや『入試ガイド』に記載し、広く社会に公表している（1-15、1-24、1-25、1-16 p. 6～7）。

『表象文化学部履修要項』には「教育理念・目標」を掲載し、大学構成員に周知している。また、『大学案内』や学科パンフレットには、人材養成の目的や「教育理念・目標」をわかりやすい表現に直した学部理念や特色を掲載し、受験生等に公表している（1-11 p. 42、p. 52、1-5 p. 80、p. 88、1-18 英語英文学科、日本語日文学科）。

また、新入生および在学生に対する4月のオリエンテーション時に、各学科の教務主任から、履修指導に連動させて表象文化学部の理念・目的を説明し、学生への理解と周知を図っている。学生の保護者に対しては、保護者会会報の学部紹介記事において、表象文化学部の理念・目的に鑑みての教育の現状と改革について報告している。

また、日本語日文学科では、新入生には学内・学外におけるオリエンテーションにおいて、学科主任・教務主任・アドバイザー教員等から具体的にわかりやすく学部の目的・理念・周知を説明している。また、父母に対しては、栄光会（父母の会）の懇談会（年2回開催）の席上でその理念・目的の周知に努めている。

〈6〉生活科学部

生活科学部では、学部・学科の理念・目的は、大学ホームページや『入試ガイド』に記載し、広く社会に公表している（1-15、1-26、1-27、1-16 p. 7）。

『生活科学部履修要項』には「教育理念・目標」を掲載し、大学構成員に周知している。また、『大学案内』や学科パンフレットには、人材養成の目的や「教育理念・目標」をわかりやすい表現に直した学部理念や特色を掲載し、受験生等に公表している（1-12 p. 42、p. 62、1-5 p. 96、p. 104、1-18 人間生活学科、食物栄養科学科）。

〈7〉文学研究科

（英語英文学専攻）

英語英文学専攻博士課程の理念・目的は、大学ホームページや『大学院履修要項』に掲載し、社会および大学構成員に広く周知している。『大学案内』には専攻の特色を掲載し、受験生等に公表している。また、博士課程（前期）においては、毎年6月に文学研究科で大学院の特別推薦入試の説明会を開催し、進学希望の学部在学生等に対する正確な情報発信に取り組んでいる（1-28、1-13 p. 38～39、1-5 p. 114）。

（日本語日本文化専攻）

日本語日本文化専攻博士課程の理念・目的は、大学ホームページや『大学院履修要項』に掲載し、社会および大学構成員に広く周知している。また、『大学案内』には専攻の特色

1. 理念・目的

を掲載し、受験生等に公表している（1-29、1-13 p. 40～41、1-5 p. 115）。

（情報文化専攻）

情報文化専攻の人材養成目的は、大学ホームページや『大学院履修要項』に掲載し、社会および大学構成員に広く周知している。また、『大学案内』には、人材養成目的を基にした専攻の特色を掲載し、受験生等に公表している（1-30、1-13 p. 42、1-5 p. 115）。

〈8〉国際社会システム研究科

国際社会システム研究科の理念・目的は、大学ホームページや『大学院履修要項』に掲載し、社会および大学構成員に広く周知している。また、『大学案内』には研究科の特色を掲載し、受験生等に公表している（1-31、1-13 p. 43、1-5 p. 116）。

〈9〉薬学研究科

薬学研究科の理念・目的は、大学ホームページや『大学院履修要項』に掲載し、社会および大学構成員に広く周知している。また、『大学案内』には研究科の特色を掲載し、受験生等に公表している（1-32、1-13 p. 44、1-5 p. 116）。

〈10〉生活科学研究科

（生活デザイン専攻）

生活デザイン専攻の理念・目的は、大学ホームページや『大学院履修要項』に掲載し、社会および大学構成員に広く周知している。また、『大学案内』には専攻の特色を掲載し、受験生等に公表している（1-33、1-13 p. 45、1-5 p. 117）。

（食物栄養科学専攻）

食物栄養科学専攻の理念・目的は、大学ホームページや『大学院履修要項』に掲載し、社会および大学構成員に広く周知している。また、『大学案内』には専攻の特色を掲載し、受験生等に公表している（1-34、1-13 p. 46、1-5 p. 117）。

（3）大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

〈1〉大学全体

建学以来受け継いできたスピリット、スピリットを基に定めたミッションを今後も継承していくとともに、今日の社会の変化に対応しながらどのような女性を輩出するかについて検証を続けている。

2010年5月に、中・長期計画案を策定するため常任委員会の下に将来構想ワーキング・グループを設置し、2011年5月に学長に答申を提出した。その後、常任委員会での審議を経て2011年12月の教授会で「同志社女子大学の将来構想に向けた方針・方策の策定について」を報告し、大学ホームページにおいても公表した（1-1）。これは5年間（2012年度から2016年度）の活動方針・方策であるため2015年度に再度見直しを行うこととしている。

また、本学のブランド力の開発・向上と維持・管理を行うために、2007年度から同志社女子大学ブランド管理委員会を設置している。委員会は毎年6月および10月に定例会議を開催し、本学のブランド向上のためのアクションプラン（ブランド構築アクションプラン）の策定・実行・検証などを行っている。

このように、スピリットおよびミッションに基づきながら定期的に検証を行っている。

〈2〉学芸学部

学芸学部では、毎年『大学案内』の作成等を機に、人材養成目的や教育の目的の適切性について確認及び検証を行っている。

(音楽学科)

音楽学科では、毎年『大学案内』及び『音楽学科パンフレット』の作成等を機に、音楽学科教員会議において、人材養成目的や教育の目的を含む教育・研究全般の検討を行っている。

(情報メディア学科)

情報メディア学科では、定期的に開催される学科会議や年に1回開催される嘱託講師懇談会で意見交換および問題点の検証を行っている。また、2012年7月から不定期で、将来構想ワーキング・グループを開催しており、カリキュラムのあり方について継続的に検証を行っている。

(国際教養学科)

国際教養学科では、毎年学期末に2回、教員が教育内容に関する中・長期的課題について集中討議しており、その場で検討する機会を設け、学科の理念・目的の適切性について検証を行っている。

〈3〉現代社会学部

現代社会学部では、学則の変更、『入試ガイド』の校正、履修要項の校正、大学ホームページの更新について、定期的に開催する学部教員会議や運営委員会で確認及び検証を行っている。

〈4〉薬学部

2015年度生から薬学教育モデルコアカリキュラムの改正が予定されていることから、カリキュラム改正に合わせて学部の理念・目的を検証することとしている。

〈5〉表象文化学部

表象文化学部では、学部の教育目的及び各学科の人材養成目的の適切性を定期的に検証することを目的として、学部教員会議にて恒常的に検討を行っている。

(英語英文学科)

英語英文学科では、学科の理念・目的の適切性を定期的に検証することを目的として、学科会議、カリキュラム委員会、科目コーディネーター会議、AES委員会、各科目担当者会議、嘱託講師懇談会を定期的に開き、問題点を検証するとともに、学科内で学生アンケート（1年次生から3年次生対象）を毎年秋に実施して、学生の意見を精査し検証している。

(日本語日本文学科)

日本語日本文学科では、学科教員会議（月例）、領域代表者連絡会議、キャリア教育他検討委員会において、定期的に検討を行っている。

1. 理念・目的

〈6〉生活科学部

生活科学部では、人間生活学科および食物栄養科学科がもつ学科懇談会を中心に、それぞれの学科の理念・目的について点検している。互いに専門科目の一部を乗り入れていることもあり、修正が生じた場合は学部教員会議にて協議する。

(人間生活学科)

人間生活学科では、『大学案内』や『生活科学部履修要項』等の作成を機に、学科主任と教務主任を中心として学科懇談会において人材養成目的や教育目的を含む教育・研究全般の検討を継続的に実施している。

(食物栄養科学科)

食物栄養科学科では、学科懇談会にて毎年『検討課題』について検討する際に、理念・目的と教育との関わりを含めて点検している。また、『生活科学部履修要項・シラバス』作成時期に、教務主任を中心として表現の適否やカリキュラムとの整合性、表現等の検証を行っている。

〈7〉文学研究科

理念・目的の適切性に関する検証は、現在、基礎となる学部、学科において行っている教育理念・目的の検証と連動して、研究科ならびに各専攻の理念・目的を、「学生の受け入れ方針」、「教育課程の編成・実施方針」、「学位授与方針」に明確化することをとおして、その適切性を文学研究科委員会において検証している。

(英語英文学専攻)

英語英文学専攻博士課程は、理念・目的の適切性について研究科委員会において定期的に検証を行っている。研究科委員会において確認された具体的な課題については、専攻委員会において検討・討議を行い、必要ならば研究科委員会において改めて正式に論議する。

(日本語日本文学専攻)

日本語日本文化専攻博士課程（前期）は、理念・目的の適切性について研究科委員会において定期的に検証を行っている。研究科委員会において確認された具体的な課題については、専攻委員会において検討・討議を行い、必要ならば研究科委員会において改めて正式に論議する。

(情報文化専攻)

情報文化専攻では、定期的に行われる情報文化専攻委員会において研究科の理念・目的の適切性について検討している。

〈8〉国際社会システム研究科

国際社会システム研究科では、国際社会システム研究科委員会にて、理念・目的について点検している。

〈9〉薬学研究科

本学大学院研究科の諸問題に関しては、全学の研究科を統括する研究科委員会が定期的に行われ、討議される。研究科の理念・目的の適切性についてはその議題の中に含まれ

る。

〈10〉生活科学研究科

生活科学研究科では、生活デザイン専攻および食物栄養科学専攻がもつ専攻委員会にて、それぞれの専攻の理念・目的について点検している。修正が生じた場合は生活科学研究科委員会にて協議する。

2. 点検・評価

●基準1「理念・目的」の充足状況

大学・学部・研究科の理念・目的を適切に設定し、学生、大学構成員や社会にも周知・公表を行っている。理念・目的の適切性についても、「同志社女子大学の将来構想に向けた方針・方策」の策定やブランド管理委員会での取り組みをとおして定期的に検証を行っており、改善すべき点についてもブランド管理委員会で策定したアクションプランにより、改善に向けた取り組みを始めている。

よって、同基準を充足している。

① 効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

2012年12月に実施した「在学生アンケート」において、「本学の建学の理念の内容についてどの程度知っていますか」という設問について、1年次生の認知度の推移を追跡したところ、2012年4月の新入生オリエンテーション時期の認知度は8.7%に対して、「在学生アンケート」を実施した12月の時点では19.8%に11.1%上昇した。大学行事や広報物をとおして建学の理念に触れることができた結果といえる。

② 改善すべき事項

〈1〉大学全体

2012年12月に実施した「在学生アンケート」で、「本学の建学の理念の内容についてどの程度知っていますか」に対して、学部生全体の認知度は24.9%という結果が出ており、認知度が十分とは言えない状況である。

〈5〉表象文化学部

大学全体の理念・目的との関連から表象文化学部の理念・目的の適切性を検証するとともに、その結果を反映した「学生の受け入れ方針」、「教育課程の編成・実施方針」、「学位授与方針」として、理念・目的の明確化を今後も検討していく。

〈6〉生活科学部

人間生活学科では、情報の公開性が高まったが、他言語版の大学ホームページの改善に着手できておらず、理念・目的の公表に関して多言語化へ向けて着手すべきであろう。

食物栄養科学科では、公表手段が多様化することで、表現のぶれや間違いが生じやすい。

1. 理念・目的

〈7〉文学研究科

大学院全体の理念・目的との関連から文学研究科の理念・目的の適切性を検証するとともに、その結果を反映した「学生の受け入れ方針」、「教育課程の編成・実施方針」、「学位授与方針」として、理念・目的の明確化を今後も検討していく。学内には『大学院チラシ』で、学外には大学ホームページ等で、教育理念・目的に関してさらに明確な情報の公表をめざす。

〈8〉国際社会システム研究科

人材の養成に関する目的を、『大学院案内』や大学ホームページの拡充をはかり、教職員および国内外の学生、外国人留学生により広く周知していく。

〈9〉薬学研究科

入進学希望者が少なく、本研究科の方針が未だ社会に浸透しきれていないと考えられるので、より積極的な広報活動が必要である。

〈10〉生活科学研究科

大学ホームページにおける大学院専用ページの拡充を通し、情報の一層の浸透を図る。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

〈1〉大学全体

ブランド管理委員会において、これまでも大学の理念や目的、歴史の浸透を図る取り組みを行っている。2012年度のブランド構築アクションプランでは、「学生を中心とした学内礼拝の充実」や「同志社女子大学の歴史等を知る冊子の発行」（2014年3月発行予定）に、2011年度に定めたアクションプランでは、「同志社女学校の創成期と新島八重」、2010年度アクションプランでは「カレッジソングや大学歌に親しむ」に取り組んでおり、このような取り組みをとおして在學生に自身が在籍する大学の歴史等を理解できるようにしている。

②改善すべき事項

〈1〉大学全体

学年別の認知度を見ると、1年次が19.7%、2年次が23.7%、3年次が26.9%、4年次が29.7%と、学年ごとに上昇しており、在学中をとおして徐々に浸透していることは確認できるが、今後はさらに浸透を図ることができる方策も含めて検討が必要である。

例えば新しい試みとして、ブランド管理委員会の2010年度ブランド構築アクションプランとして「同志社精神を育むフィールドワークの充実」に取り組んでいる。2011年度に「近代日本と同志社D」科目を設置し、「新島襄ゆかりの地を巡るニューイングランド研修」というテーマで、新島襄の教育観や生涯を形作ったアメリカ・ニューイングランドの歴史や文化を学ぶ機会を設けている。また、「会津若松・安中ツアー」と題した新島夫妻ゆかりの地を巡るプログラムを2012年度から実施している。これらのプログラムはいずれも取り組みが始まったばかりであるが、今後も見直しを加えながら継続し、大学の理念の浸透の向

上につなげる。

〈5〉表象文化学部

受験生や新入生、在学生、保護者、一般への理念・目的の周知という点では、4月のオリエンテーション期間における各学科での履修指導や日常的な担任指導、『大学案内』や各学科独自のホームページ等の利用による現在の周知方法は、一定の評価が与えられる。しかしながら、オリエンテーション時の新入生および在学生に対する履修指導の中での理念・目的の説明や、「大学学則」ならび『学部履修要項』への条文の明記だけに依存しない、表象文化学部全体としての視野に立った学部独自の視点からの教育理念・目的の構築に常に取り組む姿勢を堅持していきたい。

〈6〉生活科学部

人間生活学科では、大学ホームページの明快性、体系性について点検を行い、海外への発信すべき情報に関しては多言語化へ向け、その対応に着手する。

食物栄養科学科では、公表手段の多様化による情報のずれを防ぐため、今後は検証と発信を一連のプロセスとして実施し、複数部署の横の連携を密にとるべきであると考えられる。

〈7〉文学研究科

文学研究科は学部を基盤としていることもあり、研究科の教育理念・目的も、学部におけるそれらの延長線上に位置づけているため、より高度な専門性の追求を謳うにとどまっている。学部教育と大学院教育の連関性を踏まえる一方で、その差異を明確にし、文学研究科としての教育の有用性、有意性を明示していく必要がある。

〈8〉国際社会システム研究科

研究科の人材養成に関する目的は、外国人留学生にも配慮し、大学ホームページの表示方法の改善につとめていく。

〈9〉薬学研究科

留学生の獲得に向けた海外大学への広報活動を行う。また、社会人大学院生の獲得に向けた、医療現場への広報活動を行う。

〈10〉生活科学研究科

大学ホームページやパンフレットの掲載方法など、研究科委員会などを通して検討していく。

4. 根拠資料

- 1-1 同志社女子大学ホームページ「ホーム：将来構想」
(<http://www.dwc.doshisha.ac.jp/future/>)
- 1-2 同志社女子大学学則

1. 理念・目的

- 1-3 同志社女子大学大学院学則
- 1-4 同志社女子大学ホームページ「大学紹介：大学の精神：教育理念」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/educational_ideal.html)
- 1-5 同志社女子大学 大学案内2014
- 1-6 同志社女子大学ホームページ「大学紹介：大学の精神 教育方針」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/admission_policy/)
- 1-7 学生生活のしおり
- 1-8 学芸学部（音楽・情報・国際）音楽専攻科履修要項・シラバス
- 1-9 現代社会学部履修要項・シラバス
- 1-10 薬学部履修要項・シラバス
- 1-11 表象文化学部履修要項・シラバス
- 1-12 生活科学部履修要項・シラバス
- 1-13 大学院履修要項・時間割表・シラバス
- 1-14 クレド
- 1-15 同志社女子大学ホームページ
「大学紹介：大学の精神 教育方針：学部学科 教育方針」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/admission_policy/faculty.html)
「大学紹介：大学の精神 教育方針：専攻科 教育方針」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/admission_policy/advanced_courses.html)
「大学紹介：大学の精神 教育方針：大学院 教育・研究方針」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/about/admission_policy/graduate.html)
- 1-16 入試ガイド2014
- 1-17 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：学芸学部：音楽学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/liberalarts/music/introduction/index.html)
- 1-18 学科パンフレット2014
- 1-19 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：学芸学部：情報メディア学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/liberalarts/media/introduction.html)
- 1-20 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：学芸学部：国際教養学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/liberalarts/international/introduction.html)
- 1-21 同志社女子大学ホームページ
「学部学科：大学院：現代社会学部：社会システム学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/social/system/introduction.html)

- 1-22 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：現代社会学部：現代こども学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/social/childhood/introduction.html)
- 1-23 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：薬学部：医療薬学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/pharmacy/clinical/introduction.html)
- 1-24 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：表象文化学部：英語英文学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/representation/english/introduction.html)
- 1-25 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：表象文化学部：日本語日本文学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/representation/japanese/introduction.html)
- 1-26 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：生活科学部：人間生活学科：学科の特色」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/life/human_life/introduction.html)
- 1-27 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：生活科学部：食物栄養科学科」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/life/nutrition_science/index.html)
- 1-28 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：文学研究科：英語英文学専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/literary_research/english.html)
- 1-29 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：文学研究科：日本語日本文化専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/literary_research/japanese.html)
- 1-30 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：文学研究科：情報文化専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/literary_research/information.html)
- 1-31 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：国際社会システム研究科：国際社会システム専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/system_research/international.html)

1. 理念・目的

- 1-32 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：薬学研究科：医療薬学専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/pharmacy_research/pharmacy.html)
- 1-33 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：生活科学研究科：生活デザイン専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/life_research/design.html)
- 1-34 同志社女子大学ホームページ
「学部学科・大学院：生活科学研究科：食物栄養科学専攻」
(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/faculty_dep_info/life_research/food.html)
- 1-35 同志社女子大学 大学案内2013
- 1-36 学科パンフレット2013